

2

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平1-190325

⑤ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成1年(1989)7月31日

A 47 K 11/10

7231-2D

審査請求 未請求 請求項の数 10 (全3頁)

⑭ 発明の名称 衛生用具

⑮ 特 願 昭63-261665

⑯ 出 願 昭63(1988)10月19日

優先権主張 ⑰ 1987年10月22日 ⑱ スペイン(E S) ⑲ 8703014

⑳ 発 明 者	サルバトーレ・アドウ ツチ・アウレリオ	スペイン国08017 パルセロナ ドクトール ロークス 127
㉑ 発 明 者	イエスズ・ヴェルゲ ス・ロビラルタ	スペイン国バルセロナ 08970 サン ジョアン デスピ バセオ マルクエル 10
㉒ 出 願 人	サルバトーレ・アドウ ツチ・アウレリオ	スペイン国08017 パルセロナ ドクトール ロークス 127
㉓ 出 願 人	イエスズ・ヴェルゲ ス・ロビラルタ	スペイン国バルセロナ 08970 サン ジョアン デスピ バセオ マルクエル 10
㉔ 代 理 人	弁理士 杉村 暁秀	外1名

明 細 書

1. 発明の名称 衛生用具

2. 特許請求の範囲

1. ステム(1)および洗浄部材(2)からなり、前記ステム(1)および洗浄部材(2)の端部を容易に分離できるように互いに連結し、前記ステム(1)は一般に強固で保持できるようにし、および少なくとも前記洗浄部材(2)は便器に導入される水に浸漬して分解し、この排水システムを介して廃棄処分できるようにしたことを特徴とする衛生用具。
2. 洗浄部材(2)を15~30g/mlの範囲の重さを有する100%セルロース質のティッシュペーパーで形成した請求項1記載の用具。
3. 洗浄部材(2)をステム(1)から突出させ、ステムの端部の縦ストリップの形態に分割して形成した請求項1記載の用具。
4. 洗浄部材(2)をステム(1)からの独立素子に形成した請求項1記載の用具。
5. 洗浄部材(2)をスポンジ材から形成した

請求項1記載の用具。

6. 分離しやすくする連結は弱い区域(3)からなる請求項1記載の用具。
7. 分離しやすくする連結は作動的な組立配置からなる請求項1記載の用具。
8. ステム(1)にはステムを互いに破壊しやすくする多数の弱い区域(4)を設けた請求項1記載の用具。
9. 弱い区域(4)を環状スロットから形成した請求項8記載の用具。
10. ステム(1)を15~30g/mlの範囲の重さを有する100%セルロース質のティッシュペーパーの複数の層から形成した請求項1記載の用具。

3. 発明の詳細な説明

本発明は流水式洗浄システムを有するトイレットを手で洗浄する衛生用具に関する。

使用後、便器(toilet bowls)を洗浄するブラシは知られているが、原則として、このブラシは永久使用タイプに設計されている。

明らかなように、これらのブラシは、外観的にきれいであるけれども、前の使用者からの多量または少量の残留物または小片の糞が付着し、殆んど目に付かないが適度の衛生的条件に適合しない。更に、主として個人の奉仕が伴わない限り、使用後ブラシを衛生的にきれいにすることが容易でないし、効果的でもない。

他方において、すべての公衆施設において、多くの無名の使用者が連続的に使用するから、ブラシの使用に対するある程度の理解が必要となる。しかし、この事は使用者に対して反感をいだかせ、むしろ望ましくない物品のように思われている。

家庭において、これらのブラシの使用については、ある程度理解されるようになるが、しかし現実には使用されなく、清潔さに欠ける欠点がある。

上述する普通のブラシの容易にならない制限または欠点をなくすために、他のタイプの用具で置き替えることが要望されている。

本発明は上述する従来の欠点を除去した衛生用具を提供するもので、本発明はステムおよび洗浄

部材から構成され、前記ステムおよび洗浄部材の端部を容易に分離できるように互いに連結し、前記ステムは一般に強固で保持できるようにし、および少なくとも前記洗浄部材は便器に導入される水に浸漬して分解し、この排水システムを介して廃棄処分できるようにしたことを特徴とする。

次に、本発明を添付図面に基づいて説明する。

1例において、本発明の衛生用具は柄として用いるステム1およびこのステム1の一端に設ける洗浄部材2からなり、この洗浄部材2はステム1から延長して設け、かつステム1の端部に縦ストリップの形態で分割されるように形成する。

他の例において、洗浄部材2をステムの一端3に取付けたステム1から独立体を構成する差込体に形成できる。この洗浄部材はブラシまたはへら(spatula)の形態のストリップまたは繊維の束、またはスポンジ材物体から形成できる。これらの材料からなる洗浄部材はこれらの材料が容易に分離できるように連結し、この連結部は連結が破壊される弱い部分で形成することができる。

いずれの場合においても、少なくとも洗浄部材2はそれ自体破壊できるようにするために、水中で分解または崩壊できるようにする。このために、洗浄部材2はセルロース質材料または崩壊性樹脂から作る。特に、洗浄部材は15~30 g/mlの範囲の重さを有する100 %セルロース質のティッシュペーパーから作ることができる。

また、ステム1は水中で分解または崩壊できる材料から作るのが好ましい。この場合、上記部材2の場合と同様に、15~30 g/mlの範囲の重さを有する100 %セルロース質のティッシュペーパーから作るのが好ましい。このペーパーから形成するステムはその分解を妨げないような十分な厚さのペーパーの多層の積層から形成する。

更に、用具の使用後便器に投げ捨て、洗浄部材2を分解させるようにするために、ステムには部分5に容易に破壊できるようにする環状スロット4から形成した弱い区域を形成する。他の例では、かかる弱い区域をみぞ、オリフィスまたは任意の同等の手段で形成することができる。

洗浄部材2をステム1から分離して水に投げ捨てる場合には、ステムを上述するように永久使用タイプでなく廃棄物(くず)として分離して捨て、取り替え用の洗浄部材2を取付けできるようにする。ステムは、他の可能性を無視しないで、285~400 g/mlの重さを有する厚紙から形成することができる。

上記ステム1は洗浄部材2に接合する上述する条件を有する異なる形態の、例えば渦巻または管状のかさばらない棒(compact rod)のように形成することができる。

いずれの場合においても、この用具の最終目的は企図する洗浄作用に用い、分解および廃棄処分でき、これにより望ましい清潔さおよび美的価値観を有する使い捨ての用具とすることである。

経済的観点から、本発明の上述する用具は、用具の異なる部分に用いることのできる紙の場合のように再利用が可能である低コストの材料を使用できるので特に有利である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、1例構造の本発明の用具の斜視図、

第2図は、第1図に示す用具を部分に破壊する手段を設けた状態を示した第1図に示す用具の斜視図、および

第3図は、使用後第1図に示す用具を部分に破壊する状態を示す説明用線図である。

- 1 … ステム
- 2 … 洗浄部材
- 3 … ステムの一端
- 4 … 環状スロット (弱い区域)
- 5 … ステムの部分

FIG.1

FIG.2

FIG.3

